

化学系薬学部会より

第5回次世代シンポレクチャーシップ賞受賞講演報告

黒田悠介

Yusuke KURODA

京都大学大学院薬学研究科・京都大学白眉センター特定助教



次世代シンポレクチャーシップ賞は、若手研究者に対して海外で講演する機会を与えるたぐいまれなる賞である。創設から5年が経過し、薬学系化学分野における登竜門となる地位を確立したように思える。年齢的に最後のチャンスであった筆者は、新たに始めた研究が途上であったが玉砕覚悟で応募した。結果として第5回レクチャーシップ賞を頂くこととなり大変驚いたが、これまでの研究とも、所属研究室の研究とも異なるテーマを立ち上げ、もがきながら奮闘している姿勢が評価されたものと勝手に解釈し、報われた気持ちになった。副賞として、2025年3月3日から6日間にわたり、上海の3つの研究機関にて講演する機会を頂いたので、以下に報告する。

華東師範大学では Lijia Wang 先生がホスト。午前中は先生方との議論。お茶を振る舞うのが中国流のおもてなし。先生によって茶葉が異なるのが面白い。筆者の研究は、合成樹脂を選択的触媒として利用するものであり、午後の講演では聴衆に興味を持って聞いてもらえて安堵した。上海有機化学研究所では第22回次世代シンポの招待講演者である Jinghan Gui 先生がホスト。午前に講演が組まれており、午後は若手の先生方と議論。筆者と年齢が近く、研究以外の話でも盛り上がった。夕食ではアルコール度数が50%を超える白酒が振る舞われ、「杯を乾かすように飲む」のが中国のマナー。中国を訪れる際はエタノールに対する強い耐性が必要である。上海交通大学では出張中の Wanbin Zhang 先生に代わり、同研究室の Huo 教授がホスト。Zhang 研は総勢100人近くの巨大ラボ。午後の講演には多くの聴衆が集まり、非常に実りのある議論ができた。夜は Zhang 先生と合流し、中華料理と白酒を馳走になった。帰りのタクシーは、Zhang



上海交通大学での集合写真

ホストの Huo 先生(左端)と筆者(右から4番目)

先生のご配慮で外灘を巡る特別ルート。ほろ酔いで上海摩天楼の夜景を横目に、ツアーをやり遂げたという心地よい疲労感に浸りながらホテルへと帰った。

今回の講演ツアーを通し、海外に同年代の知己を得て、彼らの情熱を間近に感じられたことが最大の収穫だったように思う。中国では教授でなくとも主宰者として自らの研究室を運営していかななくてはならない。短期間で結果の出やすいレッドオーシャンと思える研究分野に飛び込みながらも、他者の研究と差別化する術に長けていた。近年の中国の圧倒的な成果を生み出す熾烈な競争を肌で感じ、彼らとは競合しないブルーオーシャンを創り出し、次はレクチャーシップ賞という看板なしに招待されるよう、研究に励みたいと心に誓った。

キーワード

次世代シンポレクチャーシップ賞、報告書、上海

Copyright © 2025 The Pharmaceutical Society of Japan